



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第八八号）

立秋 りっしゅう

八月七日



## 旧七夕

猛暑が続きますが、今日から暦の上では秋。残暑お見舞い申し上げます。

「日照りの朝曇<sup>あさぐもり</sup>」というのをご存知でしょうか。夏の日の朝、一時的に曇るのですが、日中は暑くなる兆しといえます。農家の方はこの時期、草抜きをするため、朝、曇っていると「今日は暑くなるな」とうんざりするそうです。これは高気圧に覆われていると、風が弱くなり、夜に雲が出来やすく、一時的に曇るのですが、日が射してくると雲はたちまち消えてしまうという気象現象なのです。俳句の季語にもなっています。

この頃になるとさすがに夜は、暑さが幾分やわらいできますが、旧暦の七夕が今年には八月十六日にあたります。七夕は古代中国の織姫と彦星の説が、日本古来の水辺に棚を建て、神の衣を織るとい<sup>たなばたつめ</sup>う棚機女と結びつき、発展しました。それで、「しちせき」と書いて、「たなばた」と読むわけです。新暦の七月七日には願いを書いた短冊が吊るされた笹竹が、おほらい町通りにずらりと飾られました。

けれど本来の旧暦の七夕には、また異なる楽しみがあります。旧暦七日の夜は、いつも半月の形をしている上弦<sup>じょうげん</sup>の月にあたるのです。昔の人はこの半月の月を船に見立て、彦星は月の船で天の川<sup>あまのがは</sup>を渡ると考えてきました。なんとロマンチックな伝説です。

さらに、上弦の月は早くに月の入りとなり、真っ暗な夜空が広がるため、星が見やすいこともあります。ちなみに十六日の月の入りは午後十時二分。七夕の夜には半月が輝き、彦星を送り届けると、やがて月は沈み、星空が広がることでしょう。今年こそ、夜空を見上げ、七夕を満喫したいと思えます。

文 千種清美

